

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第32号 2022.06.27 発行

5号棟の概観が少し見えました

初めての3本柱住居建設のため、どのような形のものでできあがるのか完成予想図がなかなか描けず、それぞれが思い描く像も必ずしも一致しているとは言えません。佐野さんからは、『柱が少ないだけに簡単に作ったはずだから、簡単に作れる方法を考えて』との宿題が出されますが、そもそも完成図が描けていない我々には、どのようにしたら簡単に出来るのか、見当もつきません。とりあえず、相当な長さの垂木が必要な事は想定できるので、できるだけ直線的な材木の調達から始まりました。

5月から小学生兄弟の家族や、高校生が市民ボランティアとして新たに加わり、平均年齢がぐっと下がったばかりか、力強い助っ人の参加に期待が膨らみます。

❖ 模型の作成

今までの円形住居と異なり3本柱の建物がなかなかイメージできません。

小枝を結んで、大体のイメージ出しをしてみました。さらに熊さんが粘土の土台に模型を作って柱の高さや垂木の長さも推測する事ができてきました。



❖ 柱の穴掘り

穴掘りの苦勞を知っているメンバーは穴掘り作業をスルーして、少年たちの担当に。

真っ直ぐ穴を掘り下げるのにはやはり鹿の角が適しているようです。

子供は土遊びが得意という事を再認識。大人と違って飽きることを知りません。



❖ やはり発生した再調整

柱の長さを切り出して、根元を火で焼いて炭化させましたが当初の柱の高さだと『屋根が高くなり、その分垂木も長いものが必要になる』ということで根元を再度カットして炭化。

『またかよ〜』といった言葉が写真からも聞こえてきます。穴の深さを調整しても良い事ですが、地中に実際の文化財が埋め戻してあるので柱の方を調整するしかありません。



❖ だんだん建物のイメージが

梁と垂木を置いて全体のイメージが現れてきました。



❖ ここで佐野さんチェック

佐野さんが何を言い出すか・・・皆、戦々恐々。
梁の高さやかける位置、垂木の角度、柱の場所・・・などなど
全体のバランスと実用性を考慮すると、正解を見つけ出すのが
難しいところです。

とりあえず、入口の柱の位置を狭くすることに。
という事は・・・穴を掘り直す？

手作り分度器が活躍

子どもの発想で、もっとよいものができるかも



丸太のシーソーが出現

5人乗るとちょうどバランスがとれました



❖ 作業をするのには暑さが厳しい季節になってきました。

8月6日までの作業として、夏季休業期間に入り、また9月2日から作業を再開する予定です。
コロナ対策から、今度は熱中症対策を十分して作業に参加するようにしてください。

❖ 9月には土器づくり体験ができるように準備を進めています。

実施内容が決まりましたら皆さんに募集案内をお送りしますので、楽しみにしてください。